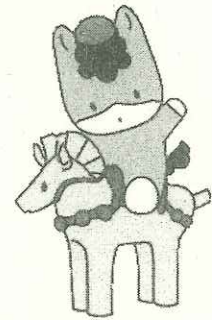


東国文化自由研究レポート



研究テーマ

お富士山古墳の
被葬者とは？

提出日 2021年8月27日(金)



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 1組 14番

氏名 齋藤 加奈

1. 調べようと思った動機

私は、東国文化や、古墳時代のことについて、あまり知りませんでした。そこで、まず、東国文化や古墳時代のことについての知識を深め、今回の研究のヒントをもらうために、群馬県立歴史博物館や、かみつけの里博物館や、赤堀歴史民俗資料館に行って、東国文化や古墳時代のことについて詳しい方にお話を伺ったり、展示を見て、勉強をしたりしてきました。

実は、行く前は、難しそうで、自分には理解できないのではないかと不安に思っていたのですが、実際に行ってみると、それぞれの博物館や資料館が、私のように知識があまりない人や、小さな子供にも分かりやすく展示が工夫されていて、とても楽しく学ぶことが出来ました。

私は、初め、埴輪と土器と古墳があったということくらいしか知らなかったのですが、群馬の歴史、特に古墳時代についてたくさんのことを学ぶことが出来、とても楽しく興味深かったです。

その中で、家の近くのこんもりとした森だと思っていたところが「お富士山古墳」という伊勢崎市内で最も大きな前方後円墳であることを知り、「お富士山古墳」について調べてみようと思いました。

2. 調査方法や内容

<調査手順>

① 博物館や資料館、古墳の見学

- ・群馬県立歴史博物館 ・赤堀歴史民俗資料館 ・かみつけの里博物館 ・八幡塚古墳
- ・二子山古墳 ・お富士山古墳 ・鶴巻古墳 ・太田天神山古墳

② お富士山古墳について調べ、分かったことをまとめる。

③ 前方後円墳で、長持形石棺が発見されている全国の古墳を表にまとめる。

④ ③から分かったことをまとめる。

⑤ お富士山古墳の被葬者について考察する。

3. 調査の結果と考察

① 博物館や資料館、古墳の見学

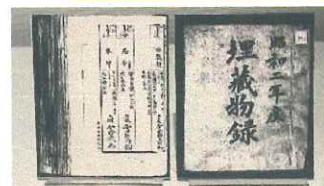
<群馬県立歴史博物館>

企画展 「古墳大国群馬へのあゆみ」が開催されていました。そこでは、古墳が描かれた絵図や古文書、勾玉や太刀、銅鏡などの様々な副葬品などが展示されていました。私は、特に勾玉の美しさに目を奪われました。また、古墳について細かく記録を残してくれた人達がいた一方で、岩鼻火薬製造所の敷地拡張のために岩鼻二子山古墳が破壊されるなど、人々の土地利用のために、失われてしまった古墳もたくさんあったということも知ることが出来ました。私は、1300年以上たった今でも、絵図や古文書、様々な副葬品がとても綺麗な形で残っているということに驚き、また、作られた当時のまま残っている素晴らしいものを作った昔の人の技術の高さを実感しました。

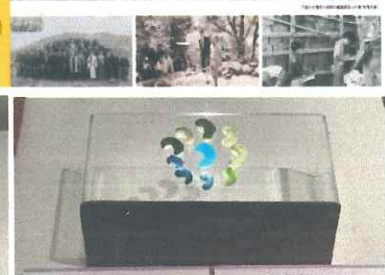
群馬県立歴史博物館 第103回企画展

古墳大国群馬へのあゆみ

2021年
7月17日(土) - 9月5日(日)



東京国立博物館が買い上げた記録



築瀬二子塚古墳から出土した勾玉

常設展 入るとすぐに、暗闇の中で霧に包まれたような映像が流れていて、その前に立つと、綿貫観音山古墳の横穴の石室に自分が入っていくような映像に代わり、まるで古墳時代にタイムスリップしたように感じました。その映像が終わるとすぐに、綿貫観音山古墳から出土した、国宝となっている埴輪や副葬品が展示されていました。私は、埴輪の大きさと迫力、数に圧倒されました。また、近くで見ると、人や馬の顔、来ている服や身に着けているもの全てが、細部までとても良くできていて、昔の人の技術は素晴らしいと感じました。銅水瓶や突起付甗などの朝鮮半島や中国から送られてきた可能性のあるものもあり、国際的な交流があったことを知りました。また、「tsulunos」の動画では、右島館長が、「綿貫観音山古墳の副葬品は、もしかしたら朝鮮半島から直接運ばれてきたかもしれない。」とおっしゃっていて、とても驚きました。そんな昔にいったいどうやって、どのような人たちによってここまで運ばれてきたのだろうと興味深かったです。



突起付甗



銅水瓶



埴輪群像(祭礼場面)



飾り馬



振り分け髪の男子



帽子の埴輪



装身具



金銅製歩揺付飾金具

国宝展示の後には、原始時代から近現代までの群馬の歴史をぐんまちゃんと共に見ることが出来ます。どの展示もとても素晴らしかったのですが、私が特に凄いなと思った展示は、ジオラマです。当時の人々の



生活の様子が、とても細部まで作り込まれていて、人間の姿も、とても小さいのに、一人一人全部違って、建物や川や田畑などもとてもよく出来ていて、何時間でも見ていられそうでした。リニューアルしてから初めて訪れましたが、より一層分かりやすく誰でも楽しく学べるような素晴らしい展示になっていて、とても面白かったです。

夏休み中の特別企画として開催されていた「夏のれきはく こぶん発見！」というクイズラリーを私もやってみました。クイズの答えを探しながら展示を見て回るのも楽しく、全問正解で缶バッジをいただきました。

<赤堀歴史民俗資料館>



三和工業団地遺跡から出土した縄文土器

常設展示では、お富士山古墳の長持形石棺や赤堀村16号墳の舟形石棺のレプリカや、伊勢崎市内で出土した様々な土器や埴輪、石器、鉄製の太刀や勾玉などの玉類が展示されていました。中でも、一番迫力があつたのは、お富士山古墳の長持形石棺のレプリカです。想像以上に大きく、立派で、圧倒されました。と同時に、この中に眠っていた人は、どんなに凄い人だったんだろう？と知りたくなりました。他にも、資料館周辺だけでもたくさんの古墳や遺跡があることを知り、この近辺に、権力を持った豪族がいたことを実感しました。

資料館周辺の地形や遺跡を示した模型



資料館の学芸員の方にも、お富士山古墳についてのお話を伺うことが出来ました。江戸時代に、伊勢崎藩の関重嶺が調査をした時には、もうすでに石棺が半分古墳から出てしまっていて、副葬品なども失われてしまっていたこと、長持形石棺は「王者の石棺」とも呼ばれ、全国でも数少なく、群馬県内でも、お富士山古墳と、太田天神山古墳でしか見つかっていないことなどを教えていただきました。詳しい資料と、お富士山古墳の古墳カードもいただき、この後、古墳を訪れようと思いました。

また、「土器ドキクイズラリー」も挑戦してみました。最後の一つがなかなか見つけられませんが、全問正解で、シールをいただきました。



お富士山古墳の長持形石棺のレプリカ



古墳カード



「土器ドキクイズラリー」でいただいたシール

<かみつけの里博物館>

企画展 「わくわく博物館体験' 21」が開催されていました。ここでは、「つくって実感！古墳時代 こふんづくりゲーム」という、古墳の形や大きさ、並べる埴輪や副葬品などを、2000万円以内で、カタログから一つ一つ選び、自分だけのマイ古墳が作れるゲームをすることが出来ました。私は、帆立貝形古墳で、長持形石棺で、木のスコップで土を盛って作り、飾り馬の埴輪を並べ、勾玉と首かざりを副葬品として入れる古墳に



「こふんづくりゲーム」挑戦中！！



八幡塚古墳の「埴輪群像」

しました。また、近くにある八幡塚古墳に並べられている「埴輪群像」のミニチュアからそれぞれの埴輪の意味や、「古墳はどのようにつくられたか？」などについて楽しく学べる展示でした。

常設展 まず初めに、5世紀の榛名山東南麓のムラの様子を再現したジオラマがあり、三ツ寺の豪族



ジオラマ

の館や、森林、田畑、環濠集落、保渡田古墳群などが、一つ一つ細かいところまで再現されていて、見入っていると、榛名山が噴火した様子が映像で流れて、ジオラマも赤い光に照らされてまるで噴火当時のようすを見ているかのようでした。この噴火で、ムラすべてが火山灰で埋まって

しまいました。私が驚いたのは、水田に残されていた当時の人の足跡の展示でした。火山灰で覆われたことがタイムカプセルのようになって、1500年以上経っても、昔の姿が残っていることが、まるでイタリアのポンペイ遺跡のようだと感じました。

また、展示室の中央には、古墳造りのようすを再現した、見ていてとてもワクワクするジオラマがありました。たくさんの人が、それぞれの仕事を進めている場面で、土を掘るムラビトや石を積むムラビト、測量をする技術者、石工という石棺を加工する人など、様々な職人の姿がありました。ジオラマの周りには、「八幡塚古墳は造るのにどのくらいの費用がかかったのか？」や「八幡塚古墳の工事には何人の人が関わったのか？」などの説明がユニークな視点からされていて、とても楽しみながら古墳造りについて学ぶことが出来ました。

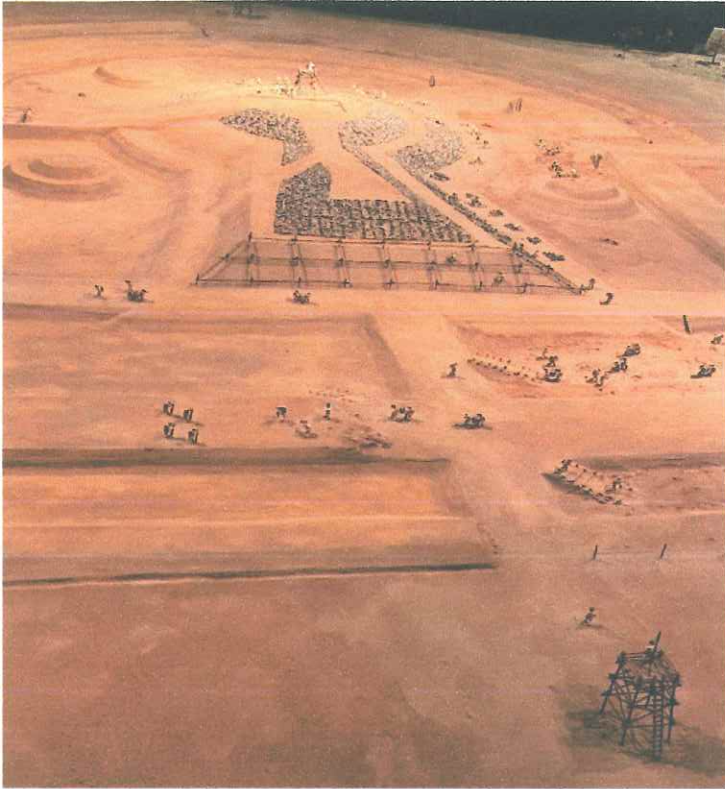
装飾品の中で、特に目を魅かれたのは、金の飾履（クツ）です。見事な細工が施されていて、とても豪華でした。朝鮮半島の影響を受けて作られた、極めて貴重な装飾品です。朝鮮半島の方は、海を隔てた日本と、どのように交流していたのか、より一層興味が湧きました。



見つかった足跡



金の飾履（クツ）



古墳造りのジオラマ



八幡塚古墳のユニークな説明

<保渡田八幡塚古墳>

かみつけの里博物館を見学した後、近くにある、保渡田八幡塚古墳に行ってきました。葺石が葺かれた立派な古墳や、古墳の上や周りに綺麗に並べられた埴輪の姿に、古墳が作られた当時の姿はこんな風だったのか！と実感しました。実際に古墳の上ってみると、古墳の高さと大きさに圧倒されました。古墳の上をそのまま歩いていると、後円部に、下に続く階段がありました。降りていくと、なんとそこには、石室があり、舟形石棺が置かれていました。石室の内部は、映像では見たことがありましたが、実際に入ったことはなかったので、この場所に、この古墳の被葬者が眠っていたのか！と少し怖いような、不思議な感覚がしました。



保渡田八幡塚古墳



石室内の石棺

<お富士山古墳>

ここまで、博物館や資料館で、古墳や埴輪について学んできました。その中で、家の近くにあり、伊勢崎市内で最も大きな前方後円墳であり、長持形石棺という、珍しい石棺が発見されているお富士山古墳について、より詳しく調べてみたいと思いました。

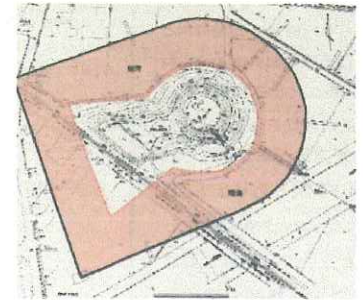
～調べて分かったこと～

①大きさ

墳丘の全長が125mあり、県内で8番目に大きい古墳で、周溝も含めると192mもある。

②形

前方後円墳であったが、両毛線の線路が通ったことで、前方部の一部が削られてしまった。実は、私は、今回東国文化の勉強をするまでは、その場所は桜が咲くと綺麗なところだなと思うだけで、古墳だとは全く知りませんでした。両毛線の線路が通ったことで、前方後円墳特有の鍵穴のような形が失われ、古墳のように見えなかったからだと思います。



お富士山古墳実測図

③石棺

長持形石棺で、全長285cm、幅121cm、高さ115cm、重さ約6.8t、材質は牛伏砂岩。長持形石棺は、「王者の石棺」とも呼ばれていて、ヤマト王権と関係を持つ特別な人でなければ使うことが出来ない。県内では太田天神山古墳と、お富士山古墳でしか発見されていない。また、全国でも、40例ほどしか確認されていない。

～被葬者は誰？～

お富士山古墳は、江戸時代に発見された時には、もう石棺が土の中から半分出ている、副葬品も、ほとんどなくなってしまっていました。被葬者が誰かを突き止める手掛かりは、ほとんど残っていませんが、大きな前方後円墳であり、長持形石棺が発見されたことから、ヤマト王権と関係を持つ特別な人物であったと考えられています。また、赤堀歴史民俗資料館でいただいた資料の中に、「長持形石棺は地方王者にも採用され、畿内石棺と規格性が同じであることから、ヤマト王権から工人が派遣されて造られたと



お富士山古墳の長持形石棺

考えられています。それは「支配」ではなく「同盟」ともいえ、その証が長持形石棺であったといえます。お富士山古墳の被葬者は、ヤマト王権と「同盟」的關係をもつ地方王者であり、ヤマト王権が国家形成を進める上で古墳や石棺はその仕組みを形成する「重要な装置」といえましょう。」とあります。古墳と石棺がヤマト王権との同盟を表すものであるなら、同じ時期の、同じような古墳と石棺の被葬者はお富士山古墳の被葬者と同じような地位の人物である可能性もあるのではないかと、そこからお富士山古墳の被葬者の姿に近づけるのではないかと、全国の前方向後円墳で長持形石棺が発見されている古墳について調べて表にしてみることにしました。

前方後円墳で長持形石棺が発見された古墳

	古墳名	所在地	築造時期	墳丘長	被葬者	副葬品など
1	大仙古墳	大阪府	5世紀中頃	486m	仁徳天皇	甲冑、鉄刀、ガラス杯
2	墓山古墳	大阪府	5世紀前半	225m	応神天皇の親族	滑石製勾玉、形象埴輪
3	乳岡古墳	大阪府	4世紀末	150m	不明	碧玉製鍬形石、車輪石
4	室宮山古墳	奈良県	5世紀初頭	238m	武内宿禰説と その子である葛城襲津彦説	勾玉・管玉、琴柱形石製品、 刀剣、革綴短甲残片、鏡破片、 神獸鏡など
5	屋敷山古墳	奈良県	5世紀中頃	140m	天皇と親戚関係を結んで大 きな権力をもった、古代豪 族「葛城氏」にかかわる人物	情報なし
6	津堂城山古墳	大阪府	4世紀後半	208m	允恭天皇	水鳥形埴輪、さしば形埴輪、 鱗付円筒埴輪
7	西陵古墳	大阪府	5世紀前半	210m	紀小弓説か紀船守説か 五十瓊敷入彦命説	円筒埴輪、器材埴輪
8	久津川車塚 古墳	京都府	5世紀前半	180m	南山城地方を治めた大首長	銅鏡7面、勾玉・ガラス玉、 鉄刀・鉄剣、甲冑、鉄鏃など
9	法王寺古墳	京都府	5世紀	74m	不明	埴輪棺、石枕、埴輪片
10	狐井城山古墳	奈良県	5世紀末～ 6世紀前半	140m	顕宗天皇か武烈天皇	滑石製子持勾玉、埴輪片
11	朱千駄古墳	岡山県	5世紀後半	85m	不明	蛇行状鉄器、鏡、鉄槍、 勾玉・管玉、朱
12	玉丘古墳	兵庫県	4世紀末	105m	根日女（伝説）	家形・水鳥型埴輪
13	雲部車塚古墳	兵庫県	5世紀中頃	140m	第9代開化天皇皇孫彦坐王 王子丹波道主命	刀剣、鉾、甲冑、鏃など
14	壇場山古墳	兵庫県	5世紀前半	142.8m	播磨国造（説）	円筒埴輪・形象埴輪（伝）、 鉄鏃・刀剣
15	月岡古墳	福岡県	5世紀中頃	80m	不明	金銅装眉庇付鉄冑眉庇付鉄 冑、金銅製胡籛金具、金銅製鞍 金具、三角縁二神二獣鏡、獣形 鏡、鉄鏃など
16	正仙塚古墳	岡山県	4世紀後半	56m	不明	銅鏡、勾玉・管玉、鉄斧、土師 器など
17	花光寺古墳	岡山県	4世紀後半	96m	不明	内行花文鏡・三角縁神獸鏡、直 刀・大刀・短剣、鉄斧など

18	谷口古墳	佐賀県	4世紀末頃	90m	不明	三角縁神獸鏡など銅鏡、石釧、玉類、鉄器類など
19	太田天神山古墳	群馬県	5世紀前半 ～中頃	210m	上毛野国造の荒田別説か その子である竹葉瀬説	家形石製模造品、水鳥形・円筒・家形・器財形埴輪
20	お富士山古墳	群馬県	5世紀前半 ～中頃	125m	不明	石製模造品、円筒埴輪

～分かったこと～

- ①所在地は、大阪府が5基、奈良県が3基、京都府が2基、兵庫県が3基など、畿内に集中している。それ以外は、岡山県に3基、福岡県に1基、佐賀県に1基と西日本に多い。東日本は、太田天神山古墳と、お富士山古墳の2基だけである。
- ②築造時期は、4世紀後半から6世紀前半と、5世紀を中心に造られていた。
- ③被葬者は、天皇が3人(1、6、10)、皇族が2人(7、13)、天皇と親族関係の豪族が2人(2、5)。4の室宮山古墳の武内宿禰は、第12代景行天皇から第16代仁徳天皇の五代にわたって、天皇に仕えた忠臣で、葛城襲津彦は、その子であり、2人とも天皇にとても近い人物であった。7の西陵古墳の紀小弓は、新羅征伐に赴いた将軍。紀船守は、公卿。五十瓊敷入彦命は、古代の皇族で、第11代垂仁天皇の皇子である。12の玉丘古墳の根日女は、後に24代仁賢天皇と、23代顕宗天皇になった、2皇子に愛された女性。14の壇場山古墳の播磨国造は、播磨国(現・兵庫県南部)を支配したと言われる人物。19の太田天神山古墳の荒田別は、第15代の神功皇后・応神天皇の時に朝鮮へ派遣されたという武将で、その子である竹葉瀬は、第16代の仁徳天皇の時に朝鮮へ派遣されたという武将である。

考察～お富士山古墳の被葬者はどんな人物だったのか～

お富士山古墳と同時期(5世紀前半～中頃)に築造され、墳丘長がお富士山古墳の125mに近い古墳は、5の屋敷山古墳と、13の雲部車塚古墳である。そして、この2つの古墳の被葬者は、天皇と親族関係を結んだ豪族と皇族である。また、県内にある太田天神山古墳の被葬者とされる人物は、朝鮮へ派遣されたことから、ヤマト王権からの信頼も厚く、強い結びつきがあったと考えられる。これらのことから、私は、お富士山古墳の被葬者は、

- ①元々この地域を治めていた豪族で、ヤマト王権や天皇家との関わりが深かった人物
 - ②ヤマト王権からこの地に派遣され、この地を治めていた人物
- のどちらかではないかと考える。

その人物も、また、太田天神山古墳の被葬者とされる人物と同じように、朝鮮に派遣されていたこともあったかもしれない。そして、ヤマト王権と連携を取りながら、伊勢崎周辺の地を治めていたのだろう。これだけの古墳に埋葬されたのだから、相当な権力者であったに違いない。この古墳や長持形石棺を造るためにどれだけの人や職人が関わったのか、6.8tもの巨大な石棺の石はどこからどのように運ばれたのか、どんなきらびやかな副葬品があったのか、謎はつきない。

～感想～

今回、研究をするために、博物館や資料館、そして、いくつかの古墳に行き、群馬の古墳時代の生活や文化について学び、群馬県に、こんなにもたくさんの立派な古墳があること、また、ヤマト王権と関わりのある人物が住んでいたこと、朝鮮半島との交流があったことなどを知ることが出来ました。特に、保渡田八幡塚古墳は、築造当時の様子が再現されていて、迫りに圧倒されました。それと比べて、お富士山古墳に実際に行ってみて、訪れる人も少ないお富士山古墳は、まるで人々に忘れ去られてしまったかのような寂しい感じがしました。お富士山古墳は、江戸時代に発見された時には、石棺が土から半分出てしまい、副葬品も多くが失われてしまっていました。しかし、今回の研究から、お富士山古墳の被葬者は、ヤマト王権との関わりが強く、とても有力であったと思うので、もしも副葬品が失われずに残っていたのなら、素晴らしいものが出土したのではないかと思います。また、両毛線の線路を通すために、前方部の一部が削られてしまいましたが、古墳が造られた当時の姿が今も残っていたのなら、きっととても大きく立派な古墳であったと思います。残念ながら、現在は築造当時と姿が変わってしまいましたが、それでも、やはりとても価値のある、素晴らしい、群馬の誇りとも言える古墳だと思います。今はまだ、お富士山古墳はあまり知られてはいませんが、これからお富士山古墳のことがたくさんの人のもとへ発信されて、たくさんの人に魅力が伝わっていけばいいなと思います。これからも、古墳について、東国文化について、自分から進んで学び、考えていきたいと思っています。

<おまけ>

「群馬 HANI-アプリ～群馬の埴輪を育ててオリジナル古墳をつくろう！」



私が育てた湯もみはにわ

歴史博物館に行った時に、「群馬 HANI-アプリ」というゲームアプリのチラシが置いてあり、気になったので、チラシを持って帰り、早速アプリを入れて、実際に遊んでみました。このアプリは、埴輪のお世話やクイズをして、埴輪を育てるアプリです。埴輪のお世話は、ご飯をあげたり、撫でたり、掃除をしたりすることで出来ます。また、クイズは、古墳や埴輪についての問題で、何度もやっていくうちに、どんどん知識が身につきます！私も、これまで、ひよこはにわや湯もみはにわ、ミニはにわなど、たくさんの埴輪を育てました。いつも勉強の合間に少しずつ育てて、息抜きをしています。



研究の最後に、家族で埴輪を作ってみました。踊る埴輪と鹿形埴輪、猫の埴輪を作りました。猫の埴輪は、実際にはありませんが、私は猫が好きで、あったらいいなと思うので、作ってみました。自分で作ってみると、思っていたよりも難しく、上手くできるか心配でしたが、何とか形になったので良かったです。改めて、今にも残る素晴らしい埴輪を作った、昔の人々の技術に感心しました。



<参考文献>

- ・群馬県 『東国文化副読本～古代ぐんまを探検しよう～』、2021年
- ・群馬県 『HANI一本 あなたの知らない、はにわの世界 イチ押しはにわ200体』、2021年
- ・『東アジアに翔る 上毛野の首長 綿貫観音山古墳』、2021年
- ・『もっと知りたい はにわの世界 古代社会からのメッセージ』、2021年
- ・群馬県立歴史博物館ホームページ <https://grekisi.pref.gunma.jp>
- ・『tsulunos』綿貫観音山古墳の世界
 - 「特別講演 第1回 古墳の発見とその特徴」
 - 「特別講演 第2回 副葬品の特徴と意義」
 - 「特別講演 第3回 埴輪の特徴と意義」
 - 「特別講演 第4回 綿貫観音山古墳の造られた時代」、2021年
- ・伊勢崎市教育委員会 文化財保護課 資料『伊勢崎市指定史跡 お富士山古墳』、2021年
- ・太田市ホームページ 『天神山古墳・女体山古墳リーフレット』
<https://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0170-009kyoiku-bunka/kankoubutu/files/shi02.tenjinyama.leaf.pdf>、2021年
- ・伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館展示リーフレット『王者の石棺』、2021年
- ・Wikipedia 『長持形石棺』 <https://ja.wikipedia.org/wiki/長持形石棺>、2021年
- ・葛城市のホームページ 屋敷山古墳
<https://www.city.katsuragi.nara.jp/soshiki/chuokominkan/1/1/1018.html>、2021年
- ・PDF デジタル岡山大百科
<https://digioka.libnet.pref.okayama.jp/cont/01/G0000002kyoudo/000/032/000032439.pdf>、2021年
- ・古墳マップ <https://kofun.info/>、2021年
- ・河西市 玉丘史跡公園ホームページ 根日女ロマンの郷
<https://www.park-tamaokashiseki.jp/story.html>、2021年
- ・正仙塚古墳 津山市ホームページ
<http://okayamanokohun.blog.fc2.com/blog-entry-534.html>、2021年
- ・日本辞典 針間国造 <http://www.nihonjiten.com/data/263278.html>、2021年
- ・群馬の情報サイト We♥群馬 群馬 HANI-アプリ <https://we-love.gunma.jp/leisure/haniapp>、

2021年